
遠く、遠く

AKIRA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠く、遠く

【Nコード】

N7618B

【作者名】

AKIRA

【あらすじ】

私は夢の為に生まれ育った町を出て行った。必死に頑張つてやってきた。でもうまくいかない。そんな時、同窓会の案内が届いたと、連絡が入った。

（前書き）

これから新しい生活が始まる全ての人に……。なんて大したものじゃないので、気軽に読んで下さい。

私はあと何年したら区切りがつくんだろう。

私は電車を待つ間、東京に来た時の事を思い出していた。

「頑張れよ！」

駅のホームに集まった私の友人達。

私は歌のオーディションを受けに行つて、見事受かったのだ。本当に嬉しかった。昔からの夢が叶った。合格通知を受け取った私はその場で泣き崩れてしまった。

私はその為に東京に行く事になった。今日はその見送りにみんなが集まってくれた。

「東京行つても俺らの事、忘れるなよ」

「有名人と知り合ったら紹介してよ」

皆それぞれが私に一言言ってくる。私もちゃんと一言一言をかみ締め返事を返した。

そして私は生まれ育った町を出て行つた。

それからの私は必死に頑張ってきた。でも歌もあまり売れず、所属事務所からもほとんど見放されてる状況。今はバイトの収入だけで暮らしている。

そんな日が続いたある日。親から電話がかかってきた。同窓会の案内状が届いたそうだ。

「どうせ暇でしょ？」

母のその言葉にカチンときたが、その通りだったので私は同窓会

に行く事にした。

私は駅のホームのベンチに座っていた。手には一応家にお土産としてひよこ饅頭を持っていた。

そしてホームに電車が入ってきた。私は立ち上がった。

その時、私の目の前をある物が横切った。

桜の花びらだ。

気付かない内に春だったのか…。

その花びらを見て、私はあの東京に来る日のことを思い出した。携帯を取り出し、家にかけた。

「ごめん。やっぱり私同窓会欠席するね」
携帯を閉じて私は歩き出す。

もう少し頑張ってみよう。遠くにいる私がみんなにわかるように。

いつかあの町に胸を張って帰れるように…。

（後書き）

元のネタは槇原敬之さんの『遠く遠く』と言う曲です。僕はこの曲は今の季節にぴったりだと思います。一度聞いてみて下さい。

余談ですが、ひよこ饅頭っておいしいよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7618b/>

遠く、遠く

2010年11月14日09時26分発行